

「旅について 思うこと」

橋本 美子



「趣味は何ですか」と聞かれると私は、よく「旅行です」と答える。旅行でも路線バスや電車を利用した旅が好きである。学生時代はお金はないが、時間はたっぷりあったので、良く利用したものだ。最近では、日数があまり取れないので、自動車を活用する旅が多くなってしまった。自動車を使うと時間が節約されて良いのだが、観光地と観光地をただ点で結んでいるようで、すごく味気ない気がする。

私が路線バスや電車の旅を好むのは、それが地域の人々の生活に密着した交通機関だからである。乗り込んでくる人々の様子や、車窓から眺める景色により、人々の暮らしを感じる事ができる。さらに、地域の

人々と触れ合うことにより、旅の面白さが増してくるのである。例えば、バスの運転手さんに話しかけ、観光案内を聞き出したり、電車で相席になった人と話をするなど。特におばあさんは、よく「どこから来たの」なんて、声を掛けてくれる。思わず話はずむと、手さげ袋の中からお菓子をだし、頂いたこともある。

また、大学四年の春、流水を見るため網走に一人旅をしたときのこと。昼食の際、立ち寄った店で、アルバイトの女性と親しくなり、私はまだ、網走刑務所を見ていないといったら、「じゃあ、これから見に行こう」といって、案内して頂いたことがあった。これもバスや電車の旅だからこの出会いだったと思う。

しかし、路線バスや電車の旅にも難点がある。それは時間に制約されることである。観光していても、発車時間が気になってゆっくり見学できない。バスや電車時間が合わずロス時間がでてくるなど。また、バスを利用すると、料金が馬鹿にならない。学生には出費となるので、私はなるべくバスよりは電車を主に利用した。

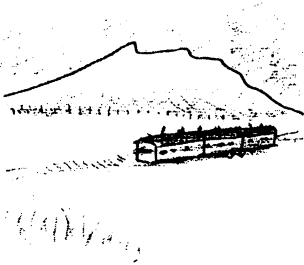
さらに、荷物を持って歩くのが面倒であること。旅の終わり頃には肩が凝り、腕は筋肉痛になる。そうやってくると、やっぱり、荷物を車に

乗せたまま身軽に動ける自動車の旅の方が、いいなあーと思ってしまう。

しかし、そういう時は、肩が凝ってもすぐ治る。バスや電車の待ち時間が長くても、もう一度辺りを見渡せば、新たな発見があるかもしれない。なにげなく時間つぶしに入った店で、思いがけない掘り出し物を見つかるかもしれないなどと、自分に言い聞かせるのである。

そして休日が近付くと、時刻表と地図を取り出しては、今度はどこへ行こうかと、次の旅での新しい出会いと発見に胸を弾ませるのである。

(県立石川高等学校教諭)



子どもの 心に添って

吉田 眞理子



「気負わずあくまでも子どもの心に添ってやってみよう」と心に決め、私は二度目の特殊学級担任になった。

しかし、始業式の日から大失敗をした。ノートや本をほうり投げるH男と、「とりなさい」「ヤダ。」を繰り返し、ますますH男にかたくなな態度を取らせてしまった。付き添ってきた母親はたまりかねたのだろう。「先生、まだ会ったばかりで慣れないので無理にやらせないでください。」

と表情を強ばらせて言ったのである。その一言で、「ああ、今私は上から下を見下ろす指導者の目をしていたな」と我に返り恥ずかしくなった。H男からみれば見慣れない担任への